

学校教育目標	○考える子（自ら課題を見つけ、考え、解決できる）「なるほど」 ○やりぬく子（粘り強く学んでいける）「できる」 ○明るい子（笑顔で元気に挨拶できる 仲間のよさを認め合える）「ありがとう」			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○家庭や地域から信頼される学校 ○学ぶ喜びを感じる児童 ○学年経営を軸にしたチーム力を高め、多様な児童理解による教育の推進
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞ ・「教科担任制」の校内研究を通した、教員一人一人の授業力、専門性の向上。 ・OJTを活用した若手教諭の人材育成および児童指導力や保護者対応力の向上。 ・特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカー、はあとポート等との連携と多様な児童理解。	課題	＜課題＞ ・書画カメラの活用、学習端末の利活用と情報教育についての共通理解。 ・にしこスタンダードや学習のやくそくを基にした、学習規律の徹底と全校で共通した授業の展開。 ・教職員の共通理解に基づいた児童への支援や健全育成を図るための関係機関との連携。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校） 評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に 対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・各教科における探求的な学習を重視した授業改善 課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現の学習過程を実施 ・「学習のやくそく」を各教室に掲示、学習規律の徹底 ・UDLの視点を基にした全教員の授業改善 ・教科担任制の効果的な運用（理科、社会、体育）と段階的な導入 →上学年…教科担任制 下学年…授業交換 ・委託業者によるEDOスク及び放 課後補習教室）の実施 ・ミライシードの活用 ・全校漢字、算数テストの実施と分析	・板書カードや1マス・1行マグネットを毎日授業で使用しているか確認する。 ・学習規律に関する児童アンケートの肯定的な回答…8割以上 ・全教員が、UDLの視点を基に、児童の特性に合わせて学び方を選べるようICT機器等の活用も含めてオプション等を工夫していく。担当児童のバリアを見つけ、手立てを講じ、校内実践報告会を年1回行う。 ・教科担任制による指導を通して児童一人一人の学力の向上を図る…児童アンケートで教科担任制や授業交換についての肯定的な意見8割以上 ・4～6年生は、各学級4～5名の児童を対象に毎週1回EDOスク（放課後補習教室）を実施 …全体の出席率9割以上 ・1～3年生は、毎週金曜日の放課後に担任による補習教室を実施する。 ・ミライシードの活用…全学年、実施率10割 ・漢字テスト、算数ベーシック診断テスト（4、5年は学力定着度調査）全員実施と分析…年間2回実施、平均正答率漢字9割以上、算数8割以上	70%		B	○板書カード等の活用が定着しつつある。 ○児童アンケートより、学習規律に関するほとんどの項目で9割以上の肯定的な回答があった一方で、「よい姿勢で学習に取り組んでいますか」という項目については、8割以下の回答であった。毎時間の授業の中で丁寧に確認し、徹底を図っていく。 ●各学級でUDLの視点を基にした授業改善を進めている。UDL GOALの共有となぜ学ぶかについての理解を深めていく必要がある。 ○夏季休業中には講師を招聘し、UDLの視点を基にした授業実践報告会を実施し、各学級の児童の予想されるバリアやそれを解決するオプションを具体的に考えることができた。 ○学年経営の視点を大切にし、3年生以上で教科担任制による指導の充実を図っている。児童アンケートの「学級目標や自分のめあてについて、続けて取り組もうとしていますか。」の項目では、9割4分の児童が肯定的に評価していることから、担任以外の教員が指導にあたってても自己の目標やめあてに対して積極的に取り組もうとしている態度が見られる。9月からは、1、2年生も教科担任制を実施していく。 ●放課後補習教室はほぼ10割の児童が出席できているが、個々の課題に適した学習内容を検討し改善していく。 ○ミライシードのドリルパークの日々の取組は学年による差はあるが、定着しつつある。 ○各学級で全校算数テスト、漢字テストが合格するよう継続して指導を行っている。 ●2～6年生の児童において、計算テストの平均正答率8割を超えたのは2つの学年で、漢字テストの平均正答率9割を超えた学年はなかった。繰り返し練習に取り組む、正答率を高めていく。	A	・UDLの視点を基にした授業改善については、非常に興味深い。 ・「学ぶ」という行動のモチベーションも大切である。そこには、教師と児童のコミュニケーションが深く関わっていくと考える。 ・なぜその教科を学ぶのかを丁寧に教えていく必要がある。					
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・総合的な学習の時間や各教科と関連させた、調べ学習等における図書資料の積極的な活用 ・総合的な学習・読書科等において思考ツール等を用いた探求的な学習の実施 ・図書館整備を行う図書館整備ボランティアを募集し、整備を進めていく。	・学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…各学期1回以上の利用 ・思考ツールを用いた学習の実施…各学期1回以上 ・ボランティアの決定、整備計画の立案 ・ボランティアによる図書館整備…週1回 ・ボランティアによる読み聞かせの実施…年6回程度	80%		B	○総合的な学習の時間や国語科、生活科等の授業で、調べ学習として学級や学年でまとめて本を貸し出し、活用することができていた。 ○ボランティアによる図書館整備を通して、季節ごとの展示が行えた。 ●読み聞かせボランティアとして多くの保護者の方に参加していただけたが、全学級に配置するまでの人数には至らなかった。 ●思考ツールを学習に活用していたが、様々なツールを活用することはできず、偏りが生じてしまった。	A	・本に接する機会を増やすような取り組みをしてほしい。					
体力の 向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	・体育学習スタンダードを活用した授業改善 ・なわ跳びチャレンジの実施（なわ跳び出前授業、各学期のなわ跳びウィーク） ・短縄（リズム縄跳び）、長縄、ランニング月間の実施	・体育学習における校内研修を年3回実施する。 ・月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。 ・体力テストの結果…各学年8種目中5種目以上、都平均を上回る。 ・短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回（期間：1ヵ月程度） ・短縄のなわとび名人…各学年1割以上	70%		B	○体力調査前に体育学習や体力テストについての校内研修を実施した。また、水泳学習についての実技研修も行い、体育科の授業力向上が図れた。 ○9月に講師を招聘し、UDLの視点を取り入れた体育学習における実技研修会を行った。日々の指導に生かしていきたい。 ○児童が興味をもって短縄チャレンジに取り組めるよう、リズム縄跳びを全校で実施した。 ○児童が意欲的に運動に取り組めるよう、体力調査における目標値を設定した。	A	・体を動かすことが好きな子供たちに育ててほしい。					

